

別表-2 エゾシカ保護管理計画に基づき実施した事業(管理事業)

管理手法	区域	実施主体	実施事業	第1期(2007~2011年度)		第2期(2012~2014年度)		
				結果概要	課題等	結果概要	課題等	
防 御 的 手 法	特定管理地区	環境省	植生保護柵の維持・補修	期間中にガンコウラン柵が倒壊破損し、修繕前にシカの侵入被害を受けた。	中長期的な維持管理体制の確立。	期間中エオルシ柵が破損し、修繕。	長期的な維持管理コストは多大で、その確保が課題。	
		林野庁	知床岬侵入防護柵維持・補修	2004年設置		風倒木等で毎年補修作業を実施。	人的な維持コストの確保が課題	
	遺産地区B	林野庁	岩尾別カシワ林侵入防護柵	2008年設置		既存保護木の中長期的な維持管理体制確立。新規保護は不可能。	風倒木等で毎年補修作業を実施。	人的な維持コストの確保が課題
			幌別侵入防護柵	2003年設置			風倒木等で毎年補修作業を実施。	人的な維持コストの確保が課題
		斜里町	しれとこ100平方メートル運動地シカ侵入防護柵の新設・維持・補修	既存柵の維持管理			老朽化した柵支柱の交換、吹き溜まり箇所のかさ上げ、一部拡張を実施。幌別台地に1基、岩尾別河畔に3基新設。	長期的な維持管理コストは多大で、その確保が課題。
		斜里町	しれとこ100平方メートル運動地樹皮保護ネット管理	樹皮保護ネットの維持管理(27種835本)			劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持作業を実施。	長期的な維持管理コストは多大で、その確保が課題。
	隣接地区	林野庁	イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵	2007年設置		中長期的な維持管理体制の確立。	倒木等で毎年補修作業を実施。	人的な維持コストの確保が課題
		斜里町	ウトロ市街地侵入防護柵の維持補修	2007年設置			経年劣化や倒木等の破損個所の補修作業を実施。	長期的な維持管理コストは多大で、その確保が課題。
		羅臼町	ルサ相泊・羅臼市街電気柵	2011年から設置開始			昆布浜〜キキリベツ、羅臼市街の一部設置。	長期的な維持管理コストは多大で、その確保が課題。
	越 冬 環 境 改 変	遺産地域B	環境省	法面牧草面積の拡大抑制		法面の改変面積を可能な限り最小限とするよう指導を実施した。	既存法面の環境改変の手法の検討。	公園内の道路工事において、現地表土の緑化を指導。
斜里町			開拓跡地森林再生事業	開拓跡地の森林再生	短期での越冬地改変は困難。他の管理手法の併用が必要。	防鹿柵内に広葉樹小苗を移植、柵内外に大苗の移植を実施。	森林が再生する速度は遅く、効果が出るまでには多大な時間が必要。	
個 体 数 調 整	特定管理地区	環境省	密度操作実験(知床岬)	5年間で685頭捕獲、そのうちメス成獣404頭。航空センサス結果から実験実施前越冬数の半減は達成。2011年には仕切り柵を設置し、効率的な捕獲をめざした。	実験から本格的な実施体制へ移行するためには、低コストで効率的な捕獲を中長期的な計画性を持って実施することができるかが課題。	2015年5月までに129頭捕獲。8シーズンにわたる捕獲で低密度化は達成。	低コストで低密度維持するための手法開発が急務。当面は仕切り柵を維持存続するが、長期的視点ではその扱いについて検討する必要がある。	
			密度操作実験(ルサ相泊)	海外で実施されている効率的な捕獲手法として、2009年からシャープシューティング(SS)の試行を開始。2011年には知床の実情に合わせ流し猟式に改めた。その他、囲いワナ、巻狩りを含め335頭を捕獲した。	・囲いワナ、シャープシューティング共に適地に限られ、密度操作実験の実施のためには手法の改良が必要。 ・希少猛禽類に配慮した捕獲の実施が必要。	2012~2014シカ年度に囲いワナで183頭、流し猟式SSで191頭捕獲した。希少猛禽類生息地では囲いワナを手法として選択した。	北部相泊地区での捕獲圧維持が課題。また低コストで低密度維持するための手法開発が今後求められる。	
			密度操作実験(幌別岩尾別)	最終年に手法検討を兼ねた実験的な捕獲を行い、囲いワナで85頭、流し猟式SSで309頭、くくりワナで58頭の計452頭捕獲した。	観光利用との調整、高密度生息地で効率的に大量捕獲を行うための手法や体制、捕獲物の搬出処分方法などの開発が課題。	囲いワナ、流し猟式SSに加え、大型仕切り柵を稼働、2012~2014シカ年度に802頭を捕獲した。	岩尾別に比べ、利用者の多い幌別地区で効果的に捕獲するための手法検討が必要。また低コストで低密度維持するための手法開発が今後求められる。	
	遺産地域B	環境省	銃器に捕獲				2015年3月に34頭捕獲。	隣接地区が捕獲対象エリアとなるが、遺産地域に比べシカの警戒心が強く、捕獲の難易度は高い。捕獲期間や捕獲対象地の選定、手法の組み合わせなど更なる改良工夫が求められる。
			春苧古潭囲いワナ捕獲				2012年12月~2013年3月に56頭捕獲。	
			ウトロ真鯉地区囲いワナ等銃器以外による捕獲				2013年12月~2015年4月に120頭捕獲。	
			狩猟支援事業				2014年度斜里町遠音別地区の林道2路線における林道除雪支援により、56頭の捕獲を支援。	
	隣接地区	北海道	輪採制	2007~2009年の3年間	新たな効率的な狩猟制度の運用体制の確立。	斜里町内の隣接地区において可猟期間に中断期間を設定した。		より効果的な運用体制の確立が必要とされる。
		斜里町	銃器による個体数調整	2007~2011年度の5年間で513頭(基部1004頭)	捕獲効率の向上と中長期的な実施体制の確立		2012~2014年度の3年間で795頭捕獲(基部655頭)	スマート化を最小限に抑え、より効果的な捕獲を進めるために、捕獲期間や捕獲対象エリアの設定や手法の組み合わせなど更なる改良工夫が求められる。
			銃器以外による個体数調整	2007~2011年度の3年間で894頭捕獲			2012~2014年度の3年間で148頭捕獲。	
羅臼町		銃器による個体数調整	2007~2011年の5年間で867頭	2012年6月~2015年5月に709頭捕獲。				
	銃器以外による個体数調整	2007~2011年の5年間で114頭	2012年6月~2014年12月に11頭捕獲					